



## 都市地下空間活用研究会

Urban Underground Space Center of Japan

# USJ NEWS LETTER

平成30(2018)年4月 No.2

### 日比谷線虎ノ門新駅(仮称)周辺都市開発の見学会報告

去る4月20日、都市地下空間活用研究会の主催による本年度第1回見学会(プロジェクト説明会)が開催されました。今回は森ビル(株)様、東京地下鉄(株)様、(株)大林組様他のご協力により、「日比谷線虎ノ門新駅(仮称)とその周辺の都市開発」について説明頂き、その後、それぞれの工事現場を見学させていただきました。

周辺開発の中心となる『虎ノ門一丁目地区第一種市街地再開発事業』は、街区再編や大規模土地利用転換により、国内外の企業や人々の交流、新たなビジネスの創出など国際的な交流拠点の形成を目指したプロジェクトです。また、都心や空港を結ぶバスターミナルを整備すると共に、東京地下鉄日比谷線「虎ノ門新駅(仮称)」、銀座線「虎ノ門駅」を結ぶバリアフリーに配慮した地下歩行者通路の設置や、当地区と虎ノ門ヒルズの歩行者デッキによる接続など、虎ノ門地域における安全・安心な広域的歩行者ネットワークの形成を図ろうとしています。

一方、日比谷線虎ノ門新駅(仮称)は日比谷線霞ヶ関駅～神谷町駅間の国道1号と環状第2号線の交差点付近に位置し、相対式2面のホームを設置するもので、工事にあたっては日比谷線の既設トンネルに影響を与えないアンダーピニング工法を採用し、列車及び乗客の安全を確保しながら工事を進め、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催前の暫定供用開始、2022年度最終完成を目指したプロジェクトです。

#### ■「虎ノ門一丁目地区第一種市街地再開発事業」の概要

(虎ノ門一丁目地区市街地再開発組合 HP より転載)

##### ○経緯

2010年12月：虎ノ門一丁目地区市街地再開発準備組合設立

2015年7月：虎ノ門一丁目地区第一種市街地再開発事業に関する都市計画決定告示

2016年1月：虎ノ門一丁目地区市街地再開発組合設立

##### ○事業概要

計画名称： 虎ノ門一丁目地区第一種市街地再開発事業

施行者： 虎ノ門一丁目地区市街地再開発組合

施行地区面積： 約1.5ha

建築敷地面積： 約10,360㎡

用途： 事務所、店舗、ビジネス支援施設、駐車場、教会等

階数： (高層棟) 地上36階 地下3階 塔屋3階、

(教会棟) 地上4階

建物高さ： (高層棟) 約185m、

(教会棟) 約20m

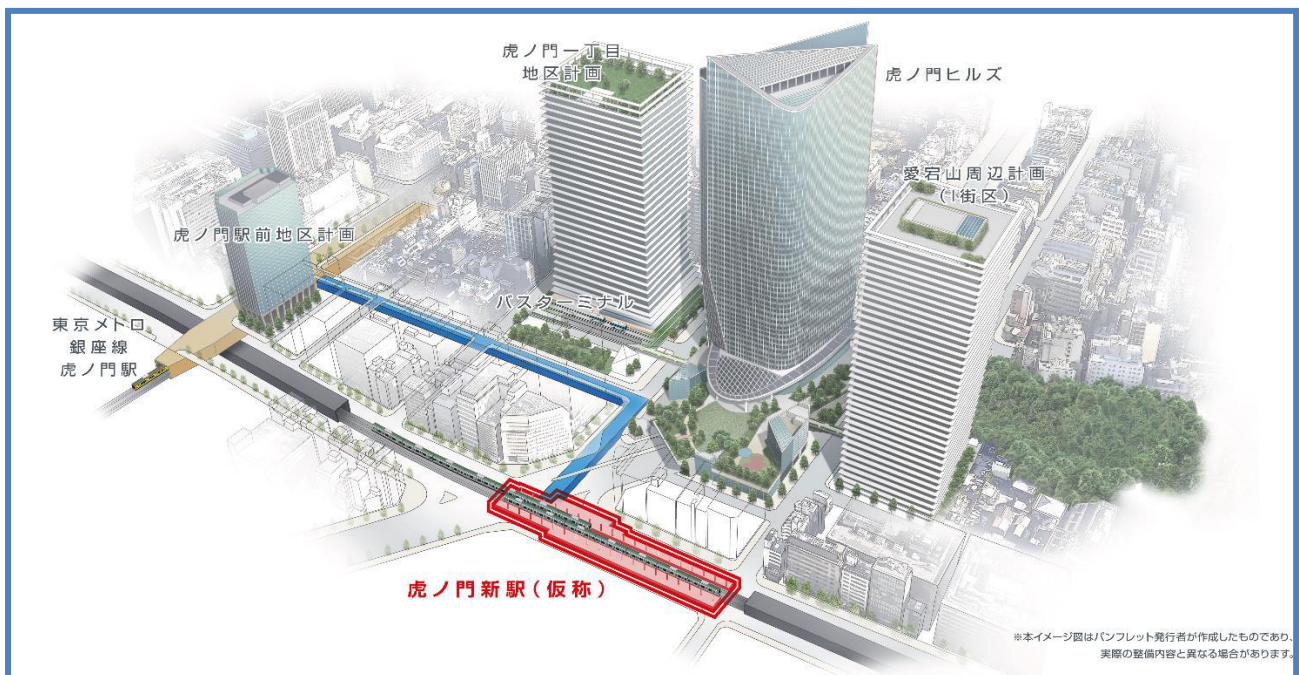
延床面積： (高層棟) 約173,020㎡、

(教会棟) 約600㎡

## ■地下鉄日比谷線虎ノ門新駅（仮称）整備事業

（独立行政法人都市再生機構および東京地下鉄株式会社 HP より転載）

- 1 事業の名称 地下鉄日比谷線虎ノ門新駅（仮称）整備事業
- 2 事業主体 独立行政法人都市再生機構
- 3 設計・工事 東京地下鉄株式会社（独立行政法人都市再生機構から受託）
- 4 事業スケジュール  
2016年2月 工事開始、  
2020年 暫定供用開始※、  
2022年度 最終完成予定  
※東京オリンピック・パラリンピック開催前の暫定供用開始
- 5 事業費 約170億円 ※供用開始時までの事業費
- 6 整備位置 東京メトロ日比谷線霞ヶ関駅～神谷町駅間  
東京都港区虎ノ門一丁目22番地先
- 7 駅の形状等 相対式ホーム2面、計画延長147m  
地下1階にホーム及び暫定改札設置（供用開始時）  
※最終完成時には地下2階に改札設置（移設）
- 8 施工方法 開削方法、アンダーピニング工法（日比谷線トンネル直下の施工）



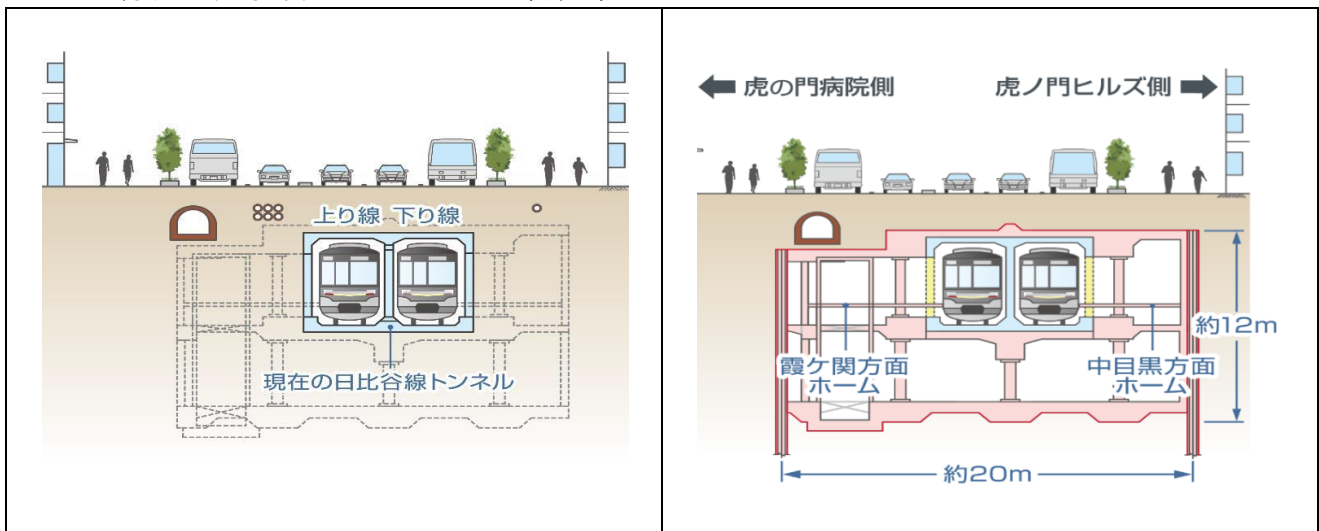
見学会当日は、まず虎ノ門一丁目地区第一種市街地再開発事業工事現場会議室をお借りして全体説明を受けました。

初めに森ビル様から虎ノ門ヒルズエリアの概要とまちづくりについて紹介がありました。虎ノ門ヒルズ森タワーに続いて、虎ノ門一丁目地区、愛宕山周辺地区、さらに虎ノ門一・二丁目地区が次々と開発され、地下鉄・バスなどの都市交通と一体となって整備が進み、地上・地下の歩行者ネットワークが形成されるイメージの説明がありました。併せて虎ノ門一丁目地区から銀座線虎ノ門駅に向かう地下通路の施工で採用されている「泥土圧シールド工法」、日比谷線虎ノ門新駅（仮称）に向かう地下通路の施工で採用されている「URT工法」、そして虎ノ門一丁目地区再開発のビジネスタワー建築工事地下部分で採用されている「逆打ち工法」などが紹介されました。

続いて東京地下鉄様から、地下鉄日比谷線虎ノ門新駅（仮称）設置に伴う土木工事について、供用開始時のイメージや施工順序について詳細に説明がありました。特に日比谷線を供用したまま、そのトンネル直下を施工する「アンダーピニング工法」について質疑と補足説明がありました。

現場見学では参加者が10名程度ずつ3つの班に分かれ、日比谷線虎ノ門新駅（仮称）の開削工事、ビジネスタワー建築工事地下の逆打ち工法、銀座線虎ノ門駅に向かう地下通路の施工で採用されている泥土圧シールド機などを順に見せていただきました。今回は多くの会員の皆さんが参加され、総勢30名を超える盛会となりました。ご迷惑をお掛けした森ビル様はじめ関係者の皆様方にこの紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

### 日比谷線虎ノ門駅新旧イメージ図（断面）



見学会の様子